

1 羽島市のこどもたちに育てたい力

資料1

(WGの意見等を踏まえ、事務局が作成)

学年	主体性	協働性	探究的な学び	地域学習	学校間・校種間の交流	
小1	キーワード 目的意識 思考・判断 実行・責任	キーワード コミュニケーション 使命感 多様性の理解	具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々・社会・自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考える。	【体験する】 地域の行事に参加したり、地域を探検したり、施設を訪問したりして、体験の中から、地域を自分との関わりの中で捉える。	【体験する】 学校間、校種間、学年間の交流を体験することで、その楽しさを理解する。	
小2			①生活や学習の中から疑問や課題をもち、それを解決するための目的を明確にする力。	①相手の話を聴き、自分の考えを的確に伝える等、コミュニケーション活動を積極的に行う力。		【知る】 地域の自然、産業、伝統文化などについて、探検や聞き取り、文献や資料を使って調べ、地域についての理解を深める。
小3			②他人の指示や答えに頼らず、「なぜそうなるのか」「どうすればよいか」を自分で考える力。	②自分の役割を理解し、責任を持って遂行する力。		①学習の過程において、課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。
小4	③自分で考えたことを実行し、結果に責任を持つとともに、改善を考える力。	③異なる考え方や個性を受け入れ、互いの立場や違いを尊重する力。	②実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。	【参加する】 地域の「人・もの・こと」に積極的に関わることを通して、地域のよさを広げたり、課題を解決し貢献したりするための方法を考え、実践することを通して、地域社会に主体的に参画する。	【知る】 学校間、校種間、学年間の交流を積極的に体験し、多様な立場や価値観があることや自分や自分たちのよさを理解する。	
小5			③学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する。			
小6			③学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する。			
中1 (7年)	③自分で考えたことを実行し、結果に責任を持つとともに、改善を考える力。	③異なる考え方や個性を受け入れ、互いの立場や違いを尊重する力。	③学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する。	【参加する】 地域の「人・もの・こと」に積極的に関わることを通して、地域のよさを広げたり、課題を解決し貢献したりするための方法を考え、実践することを通して、地域社会に主体的に参画する。	【創り出す】 学校間、校種間、学年間の交流をさらに発展させるために、自分たちでよりよい活動を考え、それを実践する。	
中2 (8年)			③学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する。			
中3 (9年)			③学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画する。			

2 適正規模・適正人数について（各WG会議での意見を整理）

	学級数について	1学級の人数について
北部	<ul style="list-style-type: none"> ・（小熊小や足近小の）大半の子が保育園から12年間一緒に仲間と過ごしている。こども同士の関係性は深まるが、「〇〇さんはリーダー」等、立場や関係性が固定化する。また、トラブルが起きた時、クラス替えができず配慮が難しいケースがある。そのため、3学級程度が望ましい。 ・単学級ではクラス替えができないことがデメリットと感じる。複数学級あるとよい。 ・1学年3～4学級あると、複数の教員で学年のこどもを見ることができ、こどもの様子を共有したり、様々な先生のよさを活かした学年経営ができたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会性を身に付けるためには、多様に触れる機会が大切。そのため、25人～30人程度の集団が必要と考える。 ・現在20人学級だが、授業は全員に目が行き届き、やりやすい。しかし、協働活動をしようとするときはもう少し人数がいるといいと感じることがある。 ・体育の授業では、チーム編成を考えると少なくとも20人は必要。 ・通常の学級では、多様な個性や特性をもつこどもが増えている。個に応じたきめ細かな指導を実現するためには20人台が適当だと思う。 ・教師が教える授業（一律一斉授業）なら20人程度がよいかもしれないが、これからの授業を考えると多人数が良いのではないかと感じる。 ・学年によって授業の形態は一律ではない。
中部	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の人間関係が複雑になっているため、3～4学級ないと学級編成が難しい。 ・3～4学級あると、学年での活動はしやすい。 ・4学級や6学級の偶数学級が良い。学年内でペアを作り、教師の協力がしやすい。 ・20年後の授業を考えると、バーチャルな学習が増えるのではないかと考えていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・20人台だと一人ひとりに目が届きやすい。 ・25人前後が理想。これ以上多いと、学習の見届けが困難である。 ・32人くらい（4人グループを8班）が良いと思っていたが、24人～30人くらいの方が教室を広く使え、学びやすい。 ・様々な取組をするときに、30人程度は必要。 ・30人くらいが、協働をしようとするときの良いのでは、色々なグルーピングができる。 ・高学年（中学校）は学習内容が難しくなり、人間関係の悩みも深まっていくため、学年が上がるにつれて1学級の人数を減らした方がよい。 ・低学年は多くの教員で見た方がよい。 ・教科によって、学習集団の人数を変えることも考えられるのではないかと感じる。
南部	<ul style="list-style-type: none"> ・2学級以上あると学級間で交流することができる。そのため、複数学級が良い。 ・2学級が良い。単学級は人間関係が固定化し、役割が決まっている子がいる。こどもの意識の中にそれが位置付いていて、それを崩すのは難しい。 ・単学級だと団結しやすいが、新しいものを取り入れることが難しい。 ・複数学級だと教員もチームで対応できる。 ・学級数は多い方がよい。3学級くらいあると職員の分担もしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人数は、20人前後ではないかと感じる。30人を超えると集団への対応が大変。 ・20人～26人くらい。18人だとグループを作るときにシャッフルができない。 ・35人だと教室規模がいっぱい。40人から減ったときには、少ないと思ったが、主体的な活動を考えると30人くらいが良いのではないかと感じる。 ・協働的な学びと考えると、適正な規模は、20人～30人くらいではないかと感じる。 ・低学年は教えなければいけないことが多いため、人数は少ないほうがよい。

各ワーキンググループの意見をまとめると



こどもたちが「主体性」や「協働性」の力を育んでいくためには、学級数は2学級以上、1学級の人数は、発達段階を踏まえつつ、30人程度が望ましい。

【(参考1) 全校児童数の推移】

※ () 内の数は1年生の数。令和13年度の数值は住民基本台帳に基づく推計値です。

学びの輪「North」			学びの輪「Central」			学びの輪「South」		
	R7	R13		R7	R13		R7	R13
足近小	165 (24)	86 (11)	竹鼻小	620 (81)	501 (77)	堀津小	133 (18)	125 (16)
小熊小	124 (18)	103 (11)	福寿小	516 (81)	533 (83)	中島小	165 (25)	113 (12)
正木小	694 (92)	491 (58)	中央小	765 (118)	604 (100)	桑原学園(前)	84 (10)	47 (6)
合 計	983 (134)	680 (80)	合 計	1901 (280)	1638 (260)	合 計	382 (53)	285 (34)

【(参考2) 令和7年度市内幼稚園・保育園・認定こども園の年長児】

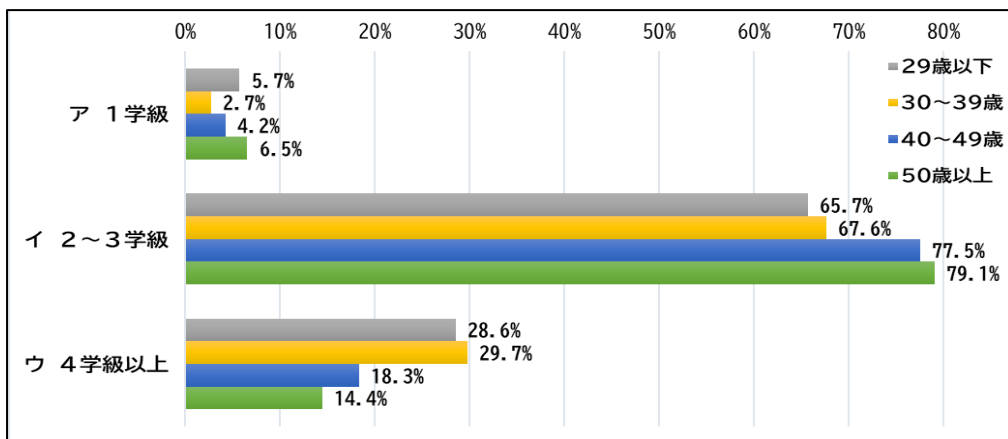
園名	地区	学級数	5歳児人数	1学級の人数
足近保育園	北部	1学級	27人	27人
小熊保育園		1学級	14人	14人
まさきこども園		2学級	54人	27人
ひかり泉こども園		1学級	21人	21人
竹鼻保育園	中部	2学級	48人	24人
福寿こども園		1学級	15人	15人
江吉良保育園		2学級	42人	21人
桜花こども園		1学級	17人	17人
羽島幼稚園		4学級	80人	20人
はしま西幼稚園		3学級	74人	25人、24人
西部幼稚園	1学級	19人	19人	
堀津保育園	南部	1学級	23人	23人
中島保育園		1学級	34人	34人
くわばらこども園		1学級	21人	21人
1学級の平均人数				22.2人

※最小値

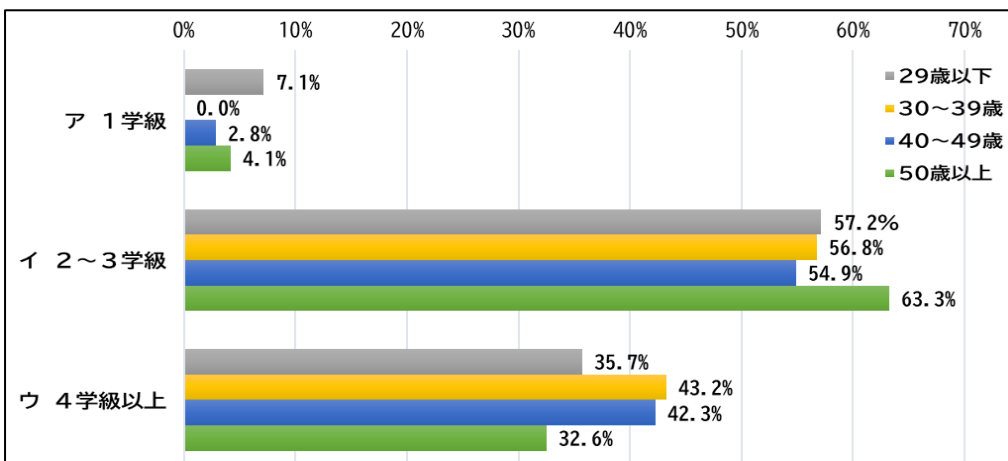
※最大値

【(参考3) 令和5年度アンケート調査(教職員)の結果】

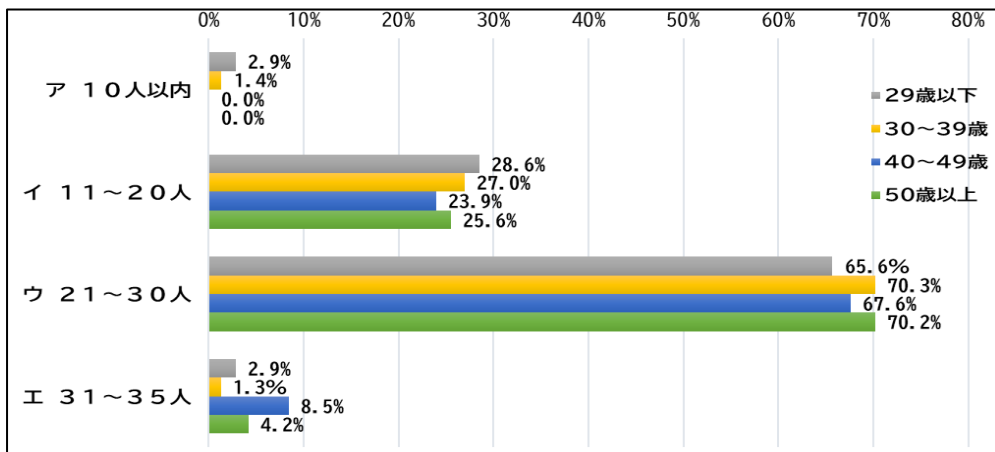
①小学校(前期課程)の学級数について



②中学校(後期課程)の学級数について



③1学級の人数について



～アンケート結果から～

【学級数】

- ・年代・種別問わず、複数学級を望む割合は9割以上である。

【1学級の人数】

- ・1学級あたり20~30人程度が望ましいが全体の6割~7割を占めている。学級にある程度の人数が必要であると考えている方が多い。
- ・11人~20人程度が望ましいが2割~3割程度である。

3 地域との連携について（WG会議での意見を整理）

【3地区共通】

- ・交通安全、農作業、学習補助等、色々なことを地域の方に手伝ってもらっている。
- ・中学校では職場体験を地域と連携して取り組んでいる。
- ・児童会・生徒会役員が運営協議会に出席している。
- ・主に中学生がボランティアで地域行事に参加している。

【各地区の特色や課題】

○地域の特色 ●今後の課題

北 部

- 小学校で、地域貢献（学校から地域へ）の活動が少ない。

中 部

- 小学校でコミュニティセンター主催のイベントに（授業の一環として）親子で参加している。地域と学校だけでなく、地域と保護者とのつながりが生まれる。こうした取組を通じて、保護者（家庭）の地域参画の意識も高まる。
- 地域の方に教えてもらう、来てもらうだけではなく、学校からも地域に出ていく活動が増えるとよい。
- 生徒会が中心となり、地域において挨拶運動を実施したが、参加は一部の生徒に留まり、参加の広がりが今後の課題として挙げられる。

南 部

- ふるさと学習や学校の畑の世話をコミュニティセンターが協力している。さらに、さまざまな活動にも地域の方が参加している。地域とともにある学校という面を強く意識している。
- 地域に合唱を披露している。また、（お世話になった地域の方に）日ごろの感謝を伝える場を設けている。
- 外部とのやりとりを担当が全てやるので、負担である。現状のまま取り組めないところについては見直しが必要と感じる。
- 持続可能な取組については、今後考えていきたい。

【方向性】

- ・地域への貢献活動を充実させる。
→地域の活動に積極的に参加する。
- ・一部ではなく学校全体で地域と連携する場を設ける。
→ 行事やカリキュラムの見直しが必要となる。

4 今後の学校間・校種間連携について（WG会議での意見を整理）

小小連携

- ・ 合同で授業を行う（オンライン交流も含む）。
- ・ 合同行事を開催する（運動会、合唱祭、校外学習等）。
- ・ 総合のテーマを揃えて学校間で交流する。
- ・ 互いの特色ある教育活動を理解し合う場を設ける。

小中連携 ※小小連携の記述以外に

- ・ 校区の6年生が中学校に行き、中学の先生の授業を受ける。
※北部、中部では今年度（3月）に実施予定
- ・ 小中合同教科部会を行う。

その他

- ・ 単学級だと教材研究を一人でやらなければならない。ICTを活用し、教材が共有できるとよい。
- ・ 小中の教員の交流ができるとよい。また、教員に兼務をつけて、複数の学校で先生が授業できるとよい。
- ・ P T A主催の学校間交流を行う。
→羽島中校区（北部）では中学校入学前に3校の小学6年生が集まってスポーツするイベントを実施している。今年度は2月11日に実施。